

Back Number

本論文は

世界経済評論 2021 年 1/2 月号

(2021 年 1 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

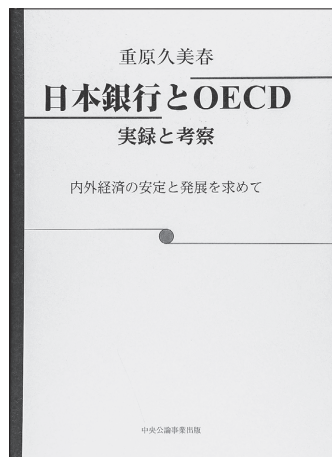
雑誌のオンライン販売

日本銀行と OECD

実録と考察

内外経済の安定と発展を求めて

外務省経済局国際貿易課長 **安部 憲明**



[著者] 重原久美春 (しげはら くみはる)

国際経済政策研究協会会長

[発行] 中央公論事業出版, 2019年12月刊

[判型] A5判・ヨコ組, 458ページ

[定価] 本体4500円+税

著者は、1962年(昭和37年)に日本銀行に入行し、経済協力開発機構(OECD)には、ナンバーツターの事務次長を1999年に退くまでの37年間、母国の中央銀行の要職と往復で、欧米偏重のこの機関に通算4度も勤務した。「先進国クラブ」たるOECDへの日本加盟は、東京五輪の1964年。著者の職歴は、ブレトンウッズ体制の保護膜に包まれた日本の高度成長、欧州の地盤沈下と統合の葛藤、基軸通貨国アメリカの指導力の陰り、冷戦終結と国際秩序の動揺、新興国の台頭といった現代経済史と軌を一にする。

父の戦死、前橋高校在学時にグルー基金での

米国留学を肺炎でふいにした痛恨、東大法学部進学。英語と仏語に長じ、日銀入行後は理論実務家の旗頭を囑望され、それを実現した。恩師や同窓、兜町と同僚との邂逅と交遊を懐かしむ頁の端々に、古き良きエリート意識や教養が香り立つ。国際決済銀行(BIS)総支配人への擁立話の立ち消え、日銀総裁に3度擬せられ選任されなかった人事のアヤも端然と振り返る。

第一部の全18章のうち6章は「考察」又は「史料」と題され、英ポンド切り下げ、日独の平価切り下げ比較、欧州通貨統合の試練、ブラックマンデーへの対応など時々の国際金融の主題を巡る著者の論陣が再現されている。昔話ではない。リーマン危機後の国際協調やBrexitを巡る議論への座標軸がここにある。

母国の混沌から距離を置き、遙か欧州の地でグローバル金融経済の大局を説く超然とした著者の姿勢を羨んでは公正さを欠く。90年代頭のクルーグマンやサマーズの「日本締め出し論」への反駁、OECDの組織改編を断行した苦勞話には、国際ガバナンスの最前線で孤軍奮闘した日本人の情熱と矜持が溢れる。

一方、OECDは、分析と提言に徹する「世界最大のシンクタンク」であることも事実だ。本書が、同時代の有事の陣頭指揮にあった各国の閣僚やセントラル・バンカー、経営者の回顧録と比べて凄味に欠けるとの読後感は禁じ得ない。また、巻頭の写真と巻末の人名索引は、東西縦横の職業人脈を物語るが、著者の政策的主張を称賛し、回顧録の執筆を勧める諸氏との書簡や会話を引く「自画他賛」ぶりに眉をひそめる向きもあろう。

本書の読者は、傘寿を迎える金融実務家の眼力と筆力、豊穡な教養を通じ、20世紀後半の国際金融の有為転変と日本経済の変容を通観することが出来る。著者との対談を通じ、「補助線を引いた」矢後和彦氏の解題の滋味も見逃せない。(あべ のりあき)